

大阪大学経営協議会（令和6年度 第4回）議事要旨

日 時 令和7年3月18日（火）10時00分～12時45分

場 所 大阪大学中之島センター 8階大会議室

出席者 西尾総長（議長）

井上ゆかり、大塚、金倉、来島、國井、黒田、多田、塚本、豊田、仲谷、中野、蓮輪、藤井、村木、
金田、田中敏宏、尾上、福田、田中学、水島、山本、井上恵嗣、栗原、大政、熊ノ郷、有川 各委員

議事に先立ち、西尾議長から、第3回（令和6年11月1日開催）及び臨時開催分（令和6年12月16日開催）の議事要旨については、事前に各委員に照会し、内容を確定した旨の報告があった。

議 事

- 1 前回のご意見等に対する取組状況について
西尾議長から、配付資料に基づき報告があった。
- 2 新執行部の運営体制について
西尾議長から、配付資料に基づき報告があった。
- 3 国立大学法人大阪大学会計規程の一部改正について
福田委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 4 業務方法書の変更について
福田委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 5 国立大学法人大阪大学役員報酬規程の一部改正について
水島委員から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 6 役員の報酬及び退職手当等について
西尾議長から、配付資料に基づき説明があり、審議の結果、これを承認した。
- 7 令和7年度OUアクションプランについて
金田委員から、配付資料に基づき報告があった。
本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。
○ 計画の記載において、「～の推進」や「～の実施」といった文言が目立つが、具体的なプランとしては数値目標等が必要ではないか。

8 国際卓越研究大学に係る公募に向けた検討状況について

尾上委員から、配付資料に基づき報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 人材育成に関して、「知」の育成だけではなく、実際に行動に移すことができる力の育成についても打ち出す必要があるのではないか。
- 審査においては、異なる分野との協働や外部との連携を具体的に打ち出せるかどうか、また、組織のキャラクター、行動力、パッション、コンセプトの新鮮さをうまく表現できるかが重要になるのではないか。
- OU マスタープランについては、国際卓越研究大学構想を反映させたものにアップデートしていく必要があるのではないか。
- 申請する他の大学との差別化は難しいことから、大阪大学のファンを増やすことが重要であり、企業等に対するアピール活動をさらに拡大してはどうか。

9 今年度を振り返ってのご意見

西尾議長から説明があり、意見交換を行った。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

- 西尾総長の在任中においては、産業界との結びつきを非常に深めるとともに、情報系学部の入学定員増員により高度情報専門人材の育成を強化し、さらに大学の財務基盤をはじめとするマネジメントも強化しており、これらはとても大きな成果であるといえる。
- この10年において、大阪大学は研究力が充実・発展する等、大きく変わったという印象である。
- 大阪大学は、ビジネスとは異なる利他的な側面から中小企業等と関係することができる場所にある唯一の大学であり、これを活かしてもらいたい。
- 大学の基盤を支えるコーポレート部門のスタッフも重要であり、その役割が本来の教育や研究等にどのように活かされているか、学内や本協議会メンバーに共有してもらいたい。また、教育研究活動のリアルな現場を知るため、大学が開催するシンポジウム等の情報を積極的に発信してほしい。
- 本協議会の今後の在り方として、ステークホルダーからのフィードバックやモラールサーベイの結果等を踏まえた学内の懸念点等について、これらをテーマとして議論することがあってもよいのではないか。ただし、事務局の負担が増加しないよう、議題の精選や説明の短縮等が必要である。
- 学部の枠にとらわれず、学生が学びたいことに特化して学べるような環境を整備するような変革が必要ではないか。また、大学への寄附という観点から同窓会は重要であり、学生の大学へのエンゲージメントを高めるためには、教員の協力も必要である。
- 事務職員の人事制度がよく整備されているため、これを学外へ積極的に公表することにより大阪大学の評判が向上し、よりよい人材獲得へつながるのではないか。
- 国際卓越研究大学構想をはじめ、計画はよくできているため、審査においてこれが十分に伝わるよう、わかりやすい言葉を使うことを意識してはどうか。また、最近の若手研究者が研究環境等により大学を選ぶ傾向を踏まえて、若手研究者の育成に関するアピールがもう少しあってもよいのではないか。さらに、「大阪大学に入りたい」、「大阪大学で育ちたい」という学生が集まるよう、大阪大学ブランドの見える化を図っていただきたい。

- 大阪大学には、国際卓越研究大学構想を通じて、小中高と連携し、多様な文化を理解できるマインドと行動力を持った人材が育つ場を整えていてもらいたい。
- 多様な文化、異なる価値観を持つ人が多く存在することを理解し、許容できる人材が日本の発展に必要であり、企業がそのような人材を求めていることを踏まえると、海外留学を卒業の必須要件にしてもよいのではないか。
- 国際卓越研究大学制度においては「どういう大学になりたいか」が問われており、次の執行部の下においても、構成員がこのことを我が事として考えるような仕組みを引き続き構築してもらいたい。また、よい取組であっても、それが伝わらなければ価値がないため、どのようにして伝える力をつけるかが今後の課題ではないか。

【その他】

1 経営協議会委員の交代について

西尾議長から、配付資料に基づき令和7年度からの委員について報告があった。続いて、本協議会学内委員のうち3月末をもって退任となる西尾議長、金田委員、福田委員、田中学委員、水島委員、山本委員、有川委員並びに陪席の深瀬理事及び泉谷理事から退任に係る挨拶があった。

(以 上)